

「家庭」の大切さ学ぶ

～家庭は子どもの心の疲れを癒す場～

男女共同参画セミナー

「家族の羅針盤」

講師 和田教育研究所所長 和田周平氏

カウンセリングや様々な子どもの問題に取り組まれる和田周平氏を講師に迎え、男女共同参画でも大きく取り上げられる子どもの問題について嶺北・嶺南2会場でセミナーを開催しました。

日々、さまざまな報道を目にする中で、子どもが引き起こす事件が多く取り上げられています。この多くの事件の根底には、行き場のない疲れきった子どもたちの心が見えます。今、それだけ心のケアが必要な子どもたちが多いということです。しかしその反面、子どもたちが心から発信しているSOSをキャッチできる大人が少ないというとも言えるのではないのでしょうか。

子どもの問題行動は、家族の問題を表わすものと考えられます。現代社会においては、何の問題も抱えていない家庭は皆無に等しく、その中で子どもたちは、家族間の対立や不調和などを敏感に察知し、微妙なバランスで自分を保っています。加えて今の子どもたちは厳しい競争社会におかれ疲れています。このように常に緊張状態の心が、ふとしたきっかけでバランスを崩すのです。私は、子どもが問題を起こすとき、本人だけでなく親(家族)にも、一緒に考えてもらい、一緒にカウンセリングする「家族療法」を実践しています。子どもの問題は家族の問題なのです。そして子どもは家族の力で治すのです。

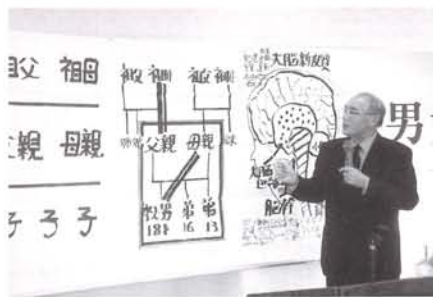
家族はその子に今日、明日

かがやく女性

題字
福井県知事 西川一誠
第16号
発行者
(財)ふくい女性財団

を生きる「希望」を持てるよう働きかけることが必要なのです。親が子どもを愛していることや、決して見捨てないことを伝えることは最低限の義務でしょう。そして、「して見せて」「ほめて育てる」。子どもが自分の存在を確認し、希望が持てる家庭であるよう、親教育も大切であると思われれます。

また、「家族」よりも「個」を中心とする傾向にある現代では、家族・母親・父親が意識的に「家族する」「母親する」「父親する」という自覚が必要となつてきています。それぞれが自覚しないと家庭は壊れ、その影響は家庭の中の弱者である子どもに出ることもあるのです。一方、家庭内では祖父母・父母・子というそれぞれの世代にそれぞれの役割があり、各世代が役割をきちんと果たすことも重要です。



「親子の絆を大切に。すべての出発は、家族です。」と結ばれ、改めて「家庭の大切さ」を実感したセミナーになりました。

セミナー参加者の声・こえ・声

- * 家族のあり方を分かりやすく説かれ、子どものために本当に必要・大切なことは何なのかを考えさせられました。
- * 家族の絆の中で、子どもたちに夢や希望を持たせながら育てるということの重要性を、今改めて噛みしめています。
- * 家庭の固い結束は第一に会話ということ。何気ない毎日を今改めて見つめると、お話の通りだと思います。孫に対して親よりも先に手を貸し、世話をしてしまいます。親を差し置いてすることではないと反省。
- * 先生の人間愛あふれるお話に胸が熱くなりました。子どもが子どもを生かされるように、できることを丁寧に、大切に精一杯やっていく元気を頂きました。
- * 家族の大切さを改めて感じました。やはり自分だけのものにしないで、他の人へも伝えていきたい。
- * 母親の生き方の大切さ、家族・家庭の大切さを再認識した。私は子育てを終えているが、二人の娘が子育て中。参考になればと何かの折につけ、教えていきたいと思う。

平成15年度ふくい女性塾「家庭・教育」

男女共同参画社会の実現を促進するため女性塾を平成13年度から開催していますが、本年度は、「家庭・教育」をテーマに平成15年11月8日から16年2月11日まで6回開催しました。

第2回目には県教育長西藤正治氏を講師に迎え「福井県の教育改革」と題し公開講座を開催しました。

氏は、「教育改革とは、教育のシステムや制度が一般の社会通念とずれて生じてきているそのずれを戻すことをいう」と定義づけられ改革の概要について、次のとおり講義をされました。

・ 福沢諭吉の「父母たるものが…、身の挙動にて教うるよりも深く心の底に染み込むものにて…、自身の所業は決して等閑にすべからず」にあるように、**家庭の教育力の向上を図る**

・ 地縁関係の希薄化を回復し、**地域の教育力の向上を図る**

・ 適正規模の学級編成や、ティーム・ティーチングなどきめ細やかな教育体制の拡充を図る

・ 教員の指導力の向上やセンター試験を全国25位から10位を目標とするなど**学力向上の取り組みを図る**

・ 非行、いじめ、暴力行為、不登校など**問題行動等へ積極的な対応を図る**



・ 中高一貫教育モデル校を設置し、そのあり方について検討をすすめる。また、**学区、学校群を廃止**するとともに、高等学校の入試制度の検討を行う10人の子どもには10人の個性があり、可能性を最大限に伸ばしていくなど「家庭、地域、学校の連携による社会全体の教育力の向上」を図るための改革の方向性を学ぶことができました。また、参加者からの質問や意見に対し丁寧な説明いただき、参加者から「家庭・地域社会の力の

大切さを再認識し、教育改革を身近に感じることが出来ました。」と、感想が寄せられました。

女性塾を振り返って…

◎ 心にゆとりと生きる力を、学校・地域・家庭で培っていく連携プレーが大切である。

◎ 子ども・大人・高齢者、相互育ちが男女共同参画の求めるものであるのだと思った。

◎ 子どもの発達、大人の発達、老人の発達という発達区分の内容とギャップの説明は面白かったし、納得した。

◎ 幼少の頃から家庭の中の共同参画を実践していれば、それが自然に地域社会へ、社会全体へと広がっていくと考える。それを自然体で実施することが望ましい。

◎ 地域全体が子どもたちにもっと関心を持ち、見守り、声かけ、豊かな関係をつくる活動が大切。

(受講者アンケートより抜粋)

ふくい女性塾プログラム(家庭・教育)

	日 時	テ ー マ	講 師
第1回	平成15年 11月 8日(土)	外国の家庭・教育 日本の家庭・教育	仁愛短期大学 講師 スプリチャル・モーリス・ルイス氏
第2回	11月15日(土)	福井の教育を語る	福井県PTA連合会顧問 寺前臣人氏 福井県教育長 西藤正治氏
第3回	12月13日(土)	学校週5日制後のこどもと家庭と地域	福井県義務教育課長 加藤良子氏
第4回	12月20日(土)	子どもの頃からの男女共同参画教育	福井大学教育地域科学部発達科学講座助教授 松木健一氏
第5回	平成16年 1月17日(土)	子どものすこやかな成長	福井県子どもNPOセンター理事長 岸田美枝子氏 福井県健康増進課企画主査 谷口孝子氏
第6回	2月11日(水)	まとめ 懇談	福井大学教育地域科学部教授 名越清家氏

「企画すること」の楽しさ 体感!!

—ふくいきらめきフェスティバル2003企画委員奮闘記—

まずは
企画委員に応募!

3/18 第1回企画委員会で
初顔合わせ

3月末 テーマ決定
「ときめこう輝こう
私らしくあなたらしく」

2日間にわたる大会の細やかな企画について各自のアイデアを出し合い、検討、決定。
さらに、人脈駆使して各イベントの講師探し……。

5月末 理事会及び実行委員会
(加盟団体長)の承認を受け、本格的にGO!

実際の運営に向けて何度も会議を開催、細部にわたるツメ、準備……

・民放2社の夕方のニュース番組に出演して、大会をPR。
・福井駅構内にもポスター掲示。
お気付きでしたか?

大会当日(9/27・28)

ヤッター!会場には人、人、人……
理事さん、会員さん、事務局の皆さん本当にありがとうございました。



16年度のつどい(6月11日(金)・12日(土))に向け、公募による新たな企画委員が、すでに活動中。今年も絶対お越しく下さいね。

ひとつの目的のもとに集まったメンバーは、どんどん親交を深めていく。いつの間にか図々しいくらい(?)の意見交換……そして見事なチームワーク!

すでに、企画案の提出が宿題。

企画委員から一言

- ☆好奇心で応募した企画委員。でも「やった価値あり」の内容と、いろんな人との出会いに感謝。感無量の2日間!
- ☆「わが街自慢コーナー」を担当。うちの町はこれが一番といえるものがあると、なんだか鼻が高いもの。意外と知られていないものがあったように思います。
- ☆知恵を寄せ合い、何も無いところから何かを作り出すことの楽しさと、新しい出会いのうれしさを味わえた。
- ☆企画委員ひとり一人の意見を尊重し、時代の背景にあるものを話し合いながら、今何を求めているのかを考えながら企画し、取り組めたことがすばらしい。
- ☆男女共同参画について認識不足だった私には、企画委員は新しい体験だった。担当講座(童謡)が好評だったことは大きな収穫だ。
- ☆PR方法に頭を悩ませた。テレビに宣伝隊として出演し、ファイトいっぱいスタッフで楽しかったです。
- ☆企画委員全員でテレビPRに出演したことは大きな前進。この大会が末永く引き継がれることを望みます。

和やかに「新年の集い」開催

今年も、女性財団恒例の「新年の集い」が平成16年1月16日(金)、福井厚生年金会館において開催されました。

西川知事はじめ、多くの方々からごあいさつを頂きました。「福井の元氣は女性から」、「皆さんの力で、女性の能力発揮の場を増やす年とされますように」など励ましの言葉を受けました。参加67団体、歌や踊りのかくし芸で会場は盛り上がり、楽しい雰囲気の中にも、今年の意気込みが伝わってきました。

いま活躍しています



チャイルドルームから

利用者の声

サークル「おかあちゃん」のわ

代表 清水 礼子

私には3人の子供がいます。以前は子どもがいつもそばにいたので、自分のための時間を持つことは無理だと思っていました。

でも、この出会い、講演会に参加したり、チャイルドルームを利用する仲間とサークルを立ち上げたり、時には情報ルームで本を読んだり、自分の人生がうんと広がりました。

ここはお母さんのための力強い応援をしていてくれるところだと思います。半日210円というのうれしいかぎりです！迎えに行ったときの子どもの満足げな顔が、保育の質の良さを物語ってくれています。

親子と
もども笑
顔でいられ
るここチャ
イルドルー
ム&ユー・
アイふくい
は福井の
宝だと思
います！



松岡女性ネットワーク

会長 堀江 俊子

12団体で発足して7年、毎年どうすれば会員全体にネットワークの活動が浸透するか模索しながら進めてきました。

「男女が応援し合い、共に築く松岡」を合言葉に男女共同参画に関する研修会を開き、宝井琴桜さんによる講演会や、男性を交えての寸劇を実施しました。寸劇では松岡弁で日常の出来事を表現してとても好評でした。その他、合併に関する研修会、議会傍聴、環境に優しい運動に取り組んでいます。



特に今年は、えちぜん鉄道が開通したことを受け、電車を利用した研修会を実施しました。電車で福井駅前に出

て国際交流会館・養浩館・県警本部を見学、2時間かけてのゆつたりした昼食。ゆつくりと歩きながら今までと違った福井を感じる事ができました。これからは、個々の活動をネットワークを通じて広めていく場でありたいと思います。

情報コーナー

*ふくいきらめきリポーター募集

県が発行する男女共同参画情報紙「Toyou」の編集員を募集しています。男女共同参画に関心があり、企画・取材・原稿執筆等を行うため随時活動できる方が対象です。

※切 平成16年4月13日(火)

詳細は県男女参画・県民活動課

TEL 0776-2000319

(http://info.pref.fukui.jp/danken/contents.htm) または、(財)ふくい女性財団

TEL 0776-4114254まで

*ふくいきらめきフェスティバル2004(仮称)

とき 平成16年6月11日(金)・12日(土)

ところ 福井県生活学習館

*日本女性会議2004松山

とき 平成16年10月22日(金)・23日(土)

ところ 愛媛県県民文化会館

福井県生活学習館から

ゆー・あいカレッジ

*男女共同参画総合セミナー

・平成16年5月23日(日)

講師名取はにわ氏(内閣府男女共同参画局長)

・平成16年9月26日(日)

講師 広瀬光治氏(ニットデザイナー)

いずれも会場は学習館多目的ホール

平成16年度各講座の詳細についてはユ・アイふくいホームページ(4月中旬掲載予定)をご覧ください。

(http://www.manabi.pref.fukui.jp/you-i/)

編集後記

「改革」の文字がさまざまなところで飛び交う今、男女共同参画も例外ではないようです。今こそ、女性の真価を発揮しましょう。

平成15年度福井労働局長奨励賞受賞

女性管理職育成・登用推進企業

アイビーエージェント

人材に関するあらゆるお悩みは私たちに相談下さい。
★即戦力になるスペシャリストを自信をもって派遣します。事務職から専門職まで幅広い分野の職種を展開しており医療・介護職の派遣も行っています。

まずはお電話を！

福井市御幸2丁目17-25 TEL 0776-29-0888

発行者 (財)ふくい女性財団

〒918-1813 福井市下六条町14-11

福井県生活学習館(ユ・アイふくい)2F

TEL(0776)4114254

FAX(0776)4114260